

【 From Kobe 2019年 待ちかねた春 春の訪れ 4月 】

平成から令和へ この春元号が変わり、激動の時代の中で

🌈 野山・海も街・里そして人も 新生の息吹に満ちて さくらと共に春爛漫

新しい出会いと出発に日々あらた 平成最後の春を元気に!!

再収録 参考 激動の平成 30 年 小林喜光氏の視点に見る 30 年間

時代が変わる 新しい時代を生きる助けになれば ー最近の新聞記事よりー
財界の重鎮 小林喜光氏の視点に見る平成 30 年間
2019.1.30 朝日新聞朝刊 オピニオン欄 掲載記事
経済同友会代表幹事 小林喜光氏 <インタビュー>記事 転記ご紹介
「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」



車集落田園地・緑ヶ丘越しに芽吹きが始まり草木燃ゆ 西六甲連山山腹には点々と咲き始めた桜・ミツバツツジのピンクも



4月 さくらと共に春爛漫

新しい出会いと出発に日々あらた

野山も里も草木萌え、新生の息吹に満ち満ちて

街には新しい門出の若者たちの華やいた声が響く

生命観あふれる うれしい季節に 気分も新た

若者たちに「カー杯飛び出せ!!」とエールを送る

今でないとの思いも強い老いの毎日

好奇心もまだある お互い無理せずを前向いて



4月21日 イースター・復活日

3月下旬アーモンドの木が桜に先駆けて 薄いピンクの花をいっぱい枝につけて咲きます。

うれしい春を告げる花の一つです。

アーモンドの花言葉は「希望」「愛」「優しさ」

アーモンドの香りが漂う春

「神とともに います」の思いも日々新た

また、この時期 菜の花の時期と重なり、

野山も里も草木萌え 生命観あふれる うれしい季節

菜の花にも「幸せ」の願いを託し、

病気や老いの克服など幾多の困難の中にいる仲間や

多くの人達に思いをはせる。

わが身の今を感謝し、 平和で穏やかな暮らし

そして迫りくる老いに 今を元気にと祈る。]

好奇心もまだ旺盛 Stay Yang Day!!

4月21日 イースター・復活日

愛と希望と幸せが みんなに 降りそそぎますように

草木萌え 花の香漂う春 身も心もあらた

神共にいまして 行く道を守りたもう

新生の息吹に満ちて 我が道を行く

God Be with You !!

今の我が身を感謝しつつ 家族・仲間そして世界のみんなに思いをはせています



桜に先駆けて咲く
「アーモンドの花」

アーモンドの花の香りが漂う春
花言葉は「希望」「愛」「優しさ」

Happy
Easter
2019



まだまだ元気 好奇心はある
仲間が頼りですが、今できることを精一杯

体を大切に! 今健康ならそれを維持し、
悪いなら、改善に努めそれが無理なら、助けを求めましょう。
ジョージ・カーリン「若いを楽しく」より



2019年 Easter
Mutsu Nakanishi from Kobe

＜ 新生の息吹に満ちて 桜満開で一機に華やぐ 神戸の春 ＞

野山も郷・街も 新生の息吹に満ちる ハッと気が付く神戸の春【1】 妙法寺北の若草の丘で



若草の丘も桜が咲き、南の遠くかすむ須磨阿蘇を背に眼下の車集落の田園地・緑ヶ丘 2019. 4. 1.



4月 我が家の庭も門崎も 一斉に花が咲いて うれしい春爛漫 2019.4.1.
野山も郷・街も 新生の息吹に満ちる ハッと気が付く神戸の春【1】 妙法寺北の若草の丘で

**野山も郷・街も 新生の息吹に満ちる 神戸の春【2】 神戸の市街地 再度山の山裾
宇治川沿いの桜並木は満開近し 一気に気分も晴れやかに**

神戸の一本桜「奥平野の舞桜」がある水の博物館の丘のすぐ下 2019.4.1.
神戸の一本桜「奥平野の舞桜」は 昨年より遅れています



神戸平野 水の科学博物館の丘から「舞桜」が見下ろす宇治川沿いの桜も満開 素晴らしい桜の春到来 2019.4.1.



奥平野「舞桜」 2018.3.28 神戸水の科学博物館

市街地を見下ろす再度山麓の丘 水の博物館に咲く神戸の一本桜 「奥平野の舞桜」 2019.4.1.
昨年は3月末にもう満開でしたが、今年はまだちらほら咲き あと1週間が待ち遠しい

2019年 待ちかねた春 4月さくらと共に春爛漫

平成から令和へ 時代が変わる 激動の時代を元気に From Kobe

「みんなに 明るい元気なメッセージを送りたい。春爛漫 桜のメッセージを!」と思いはいたり来たりです。

野山・海も街・里そして人も 新生の息吹に満ちて 新しい出会いと出発に日々あらた
昨年(2018)の4月は 地球温暖化の影響が強く現れ、春の訪れが早くから、「三春」「四春」に。

でも 今年(2019)は暖かさと寒さが入り混じり、自然も街の様子もどうも遅れがち。

一方 世相は混とん 薄っぺらな利己刹那の情報化社会の悪癖がいたるところで顔をだし、
後期高齢となった今「取り残されている」との感が募る。また、老化と闘っている仲間も随分多くなった。

春爛漫と浮かれてばかりはいられないが、若者たちにとっては門出の春

また、「平成」から「令和」へ元号が替わり、新しい時代へ

平成の30年間 高度成長の昭和から国際グローバル化・高度情報化の厳しい競争の荒波にさらされつつ、急激な高齢化社会へに突入し、なかなか幸福感が味わえぬ閉塞感が漂う社会に。私にとっては、そんな高度成長から国際競争にさらされる激動の中で、会社生活から風来坊へ一機に身の置き所を変えた時代。

いろんなことが頭をめぐる30年でした。

また、この間続けてきた「和鉄の道」Walk。一年一年掲載してきた記事の積み重ねは 私の平成行動記録でもある。
もう「和鉄」「Iron Road」「たたら製鉄」の言葉も広く使われるようになり、私の勝手な記録など もう役立たんなあ…」
と思いつつも興味は尽きず。 自分史の一部であり、その年々の歳時記にと時折 引っ張り出しては楽しんでいます。

みんなに春爛漫の元気な便りが発信できるか、気をもむ中 4月1日 神戸の桜も間に合って うれしい春に。
毎日のWalkingの道すがら、移り変わる春の景色に目を奪われ、新しい発見に「新生の息吹に満ちて」と胸膨らませ、
日々新た。若い人も年寄りも スクラム組んで 笑顔で毎日を笑顔で Good Day!!
また、自分の健康に感謝しつつも、病気や高齢と闘っている仲間のことが気にかかる。
ただ思いをはせることしかできませんが、この春を元気で!! 笑顔での復帰を願ってエールを送る。
日々老いを感じる中で、健康で元気に動ける我が身に感謝しつつ、

神 ともにいまして 得られるものを変える「勇気」と
変えられないものを 受け容れる「心の静けさ」
両者を見分ける 「叡智」を God be With you!
と唱える - ニーバーの祈りより - .

高齢者には厳しい時代 ですが、家族・仲間がいる 仲間の笑顔を活力に!!

お互い 無理せず 笑顔で 今日も一日 Good Day!

まだ好奇心もある 我が身の健康に感謝しつつ、また 一年 互いスクラム組んで
前むいて 老いを笑顔で

なかなかむづかしいが お互いGod be with You!! と我が道を行く

新生の息吹を 胸一杯膨らませて この春を笑顔で !!

2019.4.5. 平成最後の春

Mutsu Nakanishi



「平成の30年間、日本は敗北の時代だった 敗北日本、生き残れるか」

◆ インタビュー記事のトップに記載された 小林喜光氏のプロフィール

1946 年生まれ 相関理化学専攻 イスラエル留学などを経て

74 年に、三菱化成工業(現三菱化学)に。2015 年から経済同友会代表幹事

1946年、新進の企業人83人がつくった経済同友会。経済再建を誓った設立趣意書には、「全く新たな天地を開拓しなければならない」「同志 相引いて互に鞭うち脳漿をしばって」と熱い言葉が並び。

以来70年余。同友会を率いる小林喜光さんの頭を離れないのは「日本が2度目の敗北に直面している」との危機感だという。技術は米中が席巻。激変に立ち遅れ 挫折の自覚ない。

◆ 小林喜光氏 インタビュー 記事 新聞掲載要旨 水色はインタビューの質問 ◆

2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー 聞き手 編集委員・駒野剛 より

● 平成の30年間、日本は敗北の時代だった 事実を正確に受け止めなければ 再起はできません。

今では、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾンという『GAFA』と、アリババ、テンセントなど米中のネット系が上位を占め、モノづくりの企業はほとんどない。日本はトヨタ自動車が四十数位で、そこまで差がついた。

企業の盛衰が反映する国のGDP（国内総生産）でも伸び悩む日本に対し、米中は倍々ゲームで増やしていった。テクノロジーはさらに悲惨です。

かつて『ジャパン・アズ・ナンバーワン』などといい気になっているうちに、半導体、太陽電池、光ディスク、リチウムイオンバッテリーなど、最初は日本が手がけて高いシェアをとったものもいつの間にか中国や台湾、韓国などに席巻されている。もはや日本を引っ張る技術がない状態です

● 事実を事実として受け止めないから

「GAFAみたいな世界もすぐ追いつける」とのんきな気分で見られるんでしょう。

そもそも失われた20年とか、デフレマインドの克服とかいうこと自体が本末転倒です。

安倍晋三政権、アベノミクスが唱えられ 「財政出動、金融の異次元緩和を進めるから、それで成長せえ」といわれました。しかし本来は時間を稼ぐため、あるいは円高を克服するために取られた手段で、それ自体が成長の戦略だったわけではないのです。この6年間の時間稼ぎのうちに、なにか独創的な技術や産業を生み出すことが目的だったのに顕著な結果が出ていない。ここに本質的な問題があります。

内閣府の2018年6月の調査でも74・7%の国民が今に満足していると答えています。

18～29歳では83・2%ですよ。

心地よい、ゆでガエル状態なんでしょう。日本全体は挫折状態にあるのに、挫折と感しない。

この辺でいいやと思っているうちに 世界は激変して 米中などの後塵を拝しているのに、自覚もできない。カエルはいずれ煮え上がるでしょう

● 国家の未来図が描かれないままの政治が与野党含めて続いてしまったためです。

今さえよければ、自分さえよければ、という本音の中で、国民も政治家も生きてきた。

周りが敵ばかりのイスラエルや、覇権を維持するためには科学を前に進めなくてはならない米国などと違い、皆で楽しく生きていきましょうという空気が取り巻いて敗北を自覚しない。

運動会で「みんな一緒にテープを切りましょう」と競争自体を忌み嫌った時期もあった国だから無理もない」

● 敗北が見える、自覚できる事態になると・・・

地政学では三つの選択肢がある。今は米国依存ですが、さらに従属を深めた米国の別種の州として生きていく。これを断ち切れれば、うっかりすると中国の一つの市、北京や上海になる形もあり得るでしょう。

どちらも嫌だ。日本は日本だと独立を守り、米中の中で中立を保つことも可能性としてはある

経済、技術を通じた地経学的な見地が死活的に重要です。現在は歴史的な革命期にあると皆が認識すべきです。

5GもAIもサイバーセキュリティも日本は本当に遅れてしまい、基幹的な技術を欧米や中国から手に入れないと産業、社会が立ちゆかなくなる。外国政府や企業の意向を無視しては国家全体が成り立たなくなる。リーディングインダストリー（成長を引っ張る産業）を自国の技術で育てることができず、他国の2次下請け、3次下請けとして食いつなぐ国になってしまう

● **抜け出すのも至難 息継ぎのために国債が乱発された結果、財政に余力はなく、持続可能性が疑問の現状**

GDPを増やそうとして逆に国内の総負債を増やしたんです。

6年間で約60兆円のGDPが増えたといいますが、国と地方の借金は175兆円も拡大しました。

これで次の世代に引き継いでいけるでしょうか。

一方で5Gや半導体、量子コンピューターなど次世代が利用する技術の研究開発費は欧米や中国に出遅れている。

● **アベノミクスに小林さんを含め、財界も手をさしのべた。結果的に時間稼ぎに加担した責任は軽くない ……。**

非常に問われている。矜持（きょうじ）を持つ財界人が少なくなりました

経営者として、あるいは社会的公器のリーダーとして、社会に対して強く関わって変革していこうという意志を持った人の絶対数が減ったんです。

● **かつて土光敏夫さんが臨時行政調査会を率いて行政改革を進めた頃、財界には高い権威がありました。**

でも ネット社会のいまは、財界トップと言っても、持っている情報が一般の社員と比べて特段に優れているわけでもないから、社会的地位も特段に高いわけでもない。そうした状況で、官邸1強体制の中、経済財政諮問会議や未来投資会議など政府の意思決定過程に組み込まれてしまえば、できることもたかがしれている

● **変えていくためには……………**

まずは財界トップに権威のない時代だと自覚する。だからこそ財界人だけで群れて固まらず、

学界や知識人、若い人たちも含めた幅広い団体、いわば知的NPOを作って意見を交わし、社会に問いかけ、政治に注文する。そういう柔軟な形でないと世の中は動かなくなっている。

まず知的NPOとして活動する場として、今度の大阪万博などは、よい機会になると思います。

お金集めなどは二の次です。世界に向けて何を考え、何を訴えるのか、それが本質です

● **日本の衰退が心配な半面、世界は一国主義や分断が広がっています**

一国主義を主張する政治家は選ばれた存在に過ぎず、選んでいるのは国民です。悪いのは国民です。

各国で国民が劣化したんです。偽りと真実を見極めることが民主主義の原点なのに、それができずに独裁者を生む。プーチン氏や習近平氏であり、西側でもそういう連中ばかりになってきた。

劣化は老いから始まったと思います。老いて勉強しない。考えない。新しいものに果敢に挑み、切り開くエネルギーも 枯渇してきました

● **先進国は老いたのですか……………**

文明は老いるものです。ローマしかり、大英帝国しかり。新しい血と混ぜることを嫌えば衰退に向かう。

それが世界史です。トランプ氏が壁造りに躍起になっていますが、外国からいろんな人がやってきて 活性化してきたというエネルギーを馬鹿にしてはいけません。日本は「弱きを助け、強きをくじく」といった大和心は残しつつ、進取の気性を培わないと、挫折したまま滅んでしまう。単なる労働力として外国人を入れるのではなく、勉強する、考える日本人を増やす触媒の役割を担ってもらうべきです。

● **社会にはストレスが生まれませんか……………**

だからいいんです。無用な対立はいけませんが、異文化と接することで日本本来の文化も磨かれる。

陳腐化したものは淘汰（とうた）される。そうした新陳代謝を怠ったのが、残念ながら平成時代の一つの性格です。異文化とワイワイガヤガヤやって実力がつくのです

2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー 聞き手 編集委員・駒野剛 より

できるだけ記事に忠実に転記整理させていただきました

2019.2.5. by Mutsu Nakanishi from Kobe

◆ 2019.1.30. 朝日新聞掲載 小林喜光氏インタビュー記事紙面 file

<https://www.infokkna.com/ironroad/2019htm/2019mutsu/小林喜光氏記事.jpg>